

鎌倉市立第二小学校いじめ防止基本方針

2026年3月

【学校教育目標】

(1) よく考え、進んで学ぶ子

各学年の発達段階に応じて、主体的・意欲的に学習に取り組み、習得した知識や技能を活用し、よく考え判断するとともに、行動しながらさらに考えを深められる子どもの育成に努めます。

(2) 思いやりを持ち、協力し合う子

相手の立場に立って考え、行動できる子どもの育成に努めます。互いに協力し合って、知恵を出し合いながら充実した学校生活が送れるよう努めます。

また、「あいさつ」を通して心の通い合いを大切にしていきます。

(3) 自分を大切にする子（自・他を尊重する）

努力を重ねた結果できるようになったことや自分の成長を実感できることで、自分に自信を持てる子どもの育成に努めます。また、自分を大切にすることと同様に、他人を認め尊重し、互いを思いやる子どもの育成に努めます。

【いじめの定義】

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（「いじめ防止対策推進法」第2条）

【いじめに対する基本認識】

- いじめは、いじめを受けた子どもの人権を著しく侵害し、の尊厳を損なう、絶対に許されない行為である
- いじめは、どの子どもにも、どの学校でも、起こり得る
- いじめは、家庭環境や対人関係など、様々な背景から、様々な場面で起こり得る
- いじめは、いじめに直接関わった子どもだけでなく、「観衆」や「傍観者」といわれる周囲の子どもにも注意を払う必要がある
- いじめは、大人には気付きにくいところで行われることが多く、発見しにくいものである
- いじめは、その行為や様態により、犯罪行為として扱われるものもある

Ⅰ 本校のいじめの防止等に関する基本的な考え方

いじめの問題に取り組むにあたっては、いじめにはどのような特徴があるかを十分に認識し、日々「未然防止」と「早期発見」に努めるとともに、いじめを認知した場合は、早期に対応し、解決に向けて適切に取り組めます。

また、いじめ問題には、学校や家庭の問題としてだけでなく、すべての大人たちの問題として取り組む必要があるため、日頃から地域や家庭、関係機関と一丸となって相互に協力する関係づくりを進めていきます。

（学校及び教職員の責務）

すべての児童が安全安心して学習やその他の活動に取り組むことができるように、保護者、地域住民他関係者との連携を図りながら、学校全体でいじめの未然防止と早期発見に取り組めます。

また、いじめが疑われる場合においても、適切かつ迅速にこれに対処し、再発防止に努めます。

2 いじめの防止等に関する内容

それぞれの取組の時期については、「6. その他」の年間計画参照

(1) いじめの未然防止のための取組

- 体験活動や特別活動の充実を図り、学校外の人々との関わりや集団活動を通して自己の役割や責任を果たそうとする態度やよりよい人間関係を築こうとする態度等、道徳性を育む取組を進めます。
- 日頃の授業や行事等特別活動の中で、自己決定の場を用意し、誰もが活躍できる機会を設定することで、自己有用感や充実感を感じられる学校生活づくりを推進します。
- 「特別の教科道徳」（以下「道徳科」）の時間などを通して、児童が主体的にいじめ問題に取り組めるよう、「いじめは人間として絶対に許されない行為である」ことを教え、児童がいじめ問題について自ら考える機会を設けます。
- インターネットを通じて行われるいじめを防止し、効果的に対処することができるよう、児童やその保護者に対し、必要な啓発活動を行います。また、学級活動や道徳、総合的な学習の時間等の授業の中で、デジタルシティズンシップ教育の一層の推進を図ります。
- 児童が主体的に考えられるよう、日頃から分かる授業を心がけ、授業づくりに努めます。
- 学校関係者や地域の方等との連携を通して、教育活動における様々な場面で「いのちの大切さ」を学ぶ機会を設定していきます。
- 「いじめは決して許されない」という共通認識に立ち、全教職員がいじめの態様や特質等について校内研修や職員会議等を通して共通理解を図り、組織的に対応します。

(2) いじめの早期発見のための取組

- 「いじめは、どの子どもにも、どの学校でも、起こり得る問題である」という認識を持ち、学校において、日頃から子どもの日常の行動や生活の様子に目を配るとともに、児童との信頼関係の構築等に努めます。
- 定期的にアンケート調査や教育相談を実施し、児童がいじめを訴えやすい機会を次のように整えます。
 - <定期的な調査方法>
 - ① 児童対象の生活アンケート 年3回（6月、11月、2月）
 - ② 学級担任と保護者の個人面談 年2回（7月、12月）
- 児童及び保護者がいじめに係る相談が行うことができるよう次のとおり、相談体制の整備を行います。
 - ① 教育相談員の活用
 - ② スクールカウンセラーの活用
 - ③ いじめ相談窓口の周知

(3) いじめの早期解決のための対応・措置

- いじめを見た、またはいじめの疑いがある行為を見た場合は、すぐにいじめをやめさせ対応をします。
- 教職員がいじめに係る相談を受けた場合は、すみやかにその事実の有無を確認します。
- 相談・通報のあった事案は、「いじめ防止等対策委員会」を開催し情報の共有と早期解決に努めます。
- いじめがあったことが確認された場合には、学校は、いじめを受けた児童を守るため、平穏な学校生活を再開できるよう、当該児童及びその保護者に対して必要な支援を行います。
- いじめを行った児童に対しては、いじめは決して許されない行為であり、当該児童の取った行動が相手の心身に及ぼす影響等に気付かせるなど、適切かつ毅然とした指導を行います。
- いじめを見ていた児童にも自分の問題として捉えさせ、誰かに知らせる勇気を持つよう指導します。
- はやしたてたり、同調したりしている児童に対しては、それらの行為がいじめに加担する行為であることが理解できるよう指導します。

- これらの対応については、教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係する専門機関等との連携の下で取り組みます。
- いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認めるときや、児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれのあるときは、教育委員会に報告・協議し所轄警察署との相談や学校警察連携制度の活用など、警察と連携して取り組みます。
- インターネットを通じて行われるいじめについては、外部専門機関等への協力を得て、対応に努めます。

(4) いじめの解消

- いじめを行った児童に対しては、いじめは決して許されない行為であることを、適切かつ毅然と指導するとともに、いじめの行為に至った背景を把握し、当該児童及びその保護者に対して、いじめを繰り返さず、正常な学校生活を営むための助言や支援を行います。
- いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件[①いじめに係る行為の解消、②被害児童が心身の苦痛を感じていないこと]が満たされている必要があります。ただし、これらの要件が満たされる場合であっても、必要に応じて、他の事情も勘案して判断するものとします。
- いじめは、単に謝罪をもって安易に解消したと判断することはできません。学校は、いじめが解消している状態と判断した場合でも、いじめを受けた児童及びいじめを行った児童の状況を日常的な関わりの中できめ細かく把握するとともに、児童との対話を深めることなどを通していじめの再発を防ぎます。

3 いじめ防止等対策委員会の設置

いじめの防止等の取組を効果的に推進し、発生したいじめ事案に的確に対処するため、必要に応じて外部専門家の参画も得ながら、次の構成員を中心に学校全体で組織的な対応を行います。

【構成員】

校長・教頭、総括教諭、児童支援専任、教育相談コーディネーター、養護教諭、学級担任等を中心として構成し、対応する事案の内容に応じて学年担任や教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等構成員を追加します。

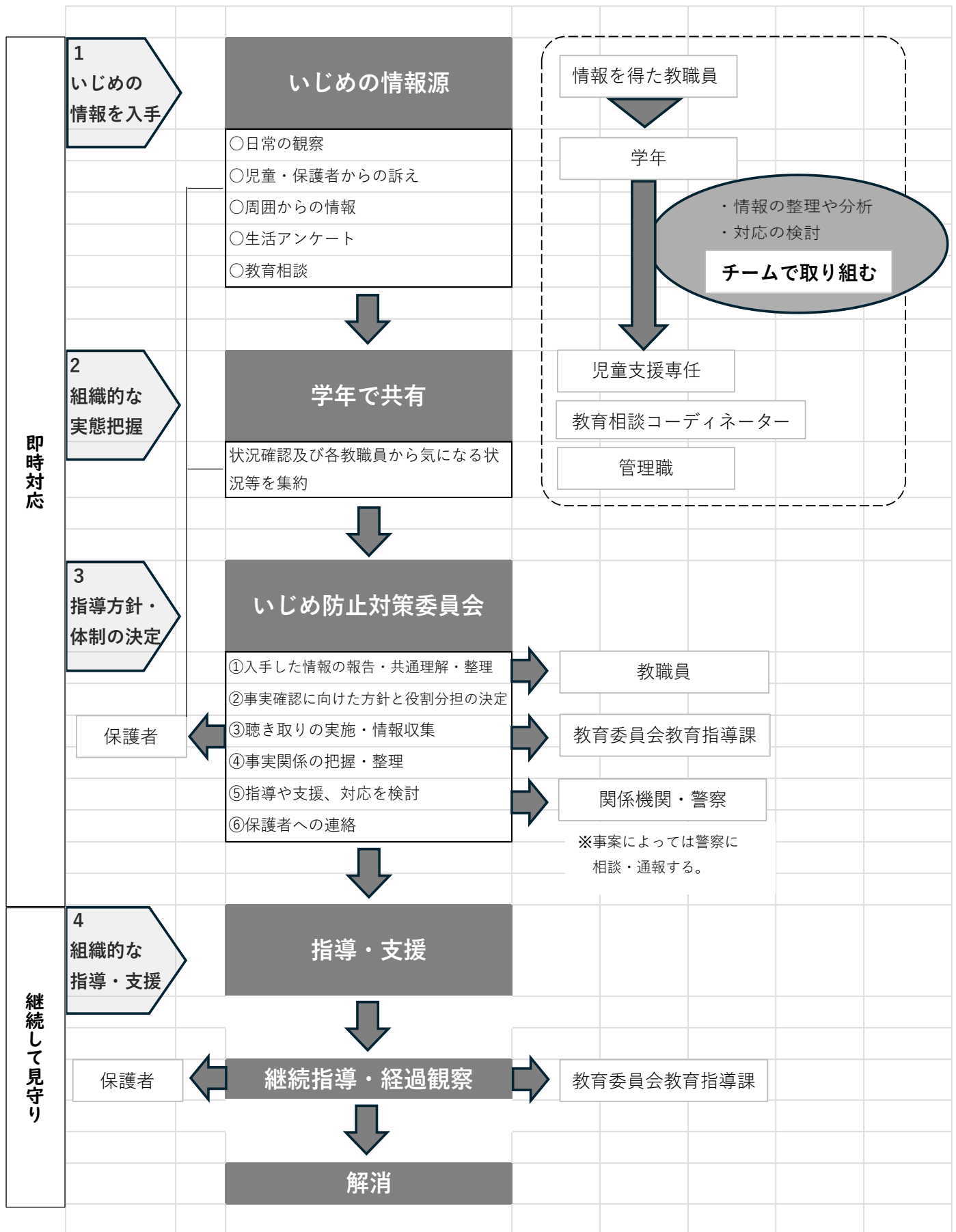
【開催時期と内容】

いじめの事案が発生していない時でも、学期に1回程度は開催し、児童の情報交換といじめ防止のための事例研究や研修を行います。

また、学校いじめ防止基本方針の見直しや、基本方針に基づく取組の年間計画の作成や実施等のほか、次のことを担当します。

- ◇児童や保護者の相談や地域住民等からの通報の窓口
- ◇いじめの疑いに関する情報や児童の問題行動などに係る情報を収集、記録
- ◇いじめの疑いのある情報があった際の学年会や職員会議等緊急会議の開催
- ◇関係する児童への事実関係の聴取など、いじめに関連する情報の迅速な収集及び調査
- ◇いじめられた児童の保護やいじめを行った児童に対する指導や支援・連携・方針の検討
- ◇いじめを受けた児童及び行った児童に対する保護及び支援並びにその保護者との連携
- ◇在校生やその保護者に対する情報提供

4. いじめの事案が発生した時の対応



5 重大事態への対処

いじめの重大事態については、「疑い」の段階から速やかに教育委員会に報告し、市いじめ防止基本方針に則って対応します。(市基本方針「III 重大事態への対処」P14 及び「いじめの対応の流れについて」に基づく。)

6. その他

いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、次の2点を学校評価項目に加え、適正に自校の取組を評価します。

◇いじめの早期発見に関する取組に関すること

◇いじめの再発を防止するための取組に関すること

○年間計画(それぞれの取組の詳細については、「2 いじめの防止等に関する内容」参照)

月	未然防止の取組	早期発見の取組	早期解決の対応
4	「いじめ防止基本方針」の確認(校内研修) いじめの対応方針を保護者に伝える(懇談会) いじめの対応方針を児童に伝える(学級でのルール作り) 定期的な情報共有 学習活動を通して認め合う関係づくりと 学年の実態に応じたデジタルシティズンシップ教育	欠席連絡フォームの確認 相談窓口の周知 教育相談員・SCの相談 面談の充実	丁寧な聞き取り 不安解消策の検討 再発防止策の検討
5	宿泊行事を通しての学び		
6	↓	児童アンケートの実施	アンケート結果の対応
7	1学期を振り返っての情報共有	学級担任と保護者の面談	
いじめ防止等対策委員会			
8			
9	二小祭を通しての学び		
10	縦割活動を通しての学び		
11	運動会を通しての学び ウォークラリーを通しての学び	児童アンケートの実施	アンケート結果の対応
12	2学期を振り返っての情報共有	学級担任と保護者の面談	
いじめ防止等対策委員会			
1			
2		児童アンケートの実施	アンケート結果の対応
3	↓ 3学期を振り返っての情報共有 いじめ防止基本方針の見直し 年間の取り組みについての振り返り		↓
いじめ防止等対策委員会			